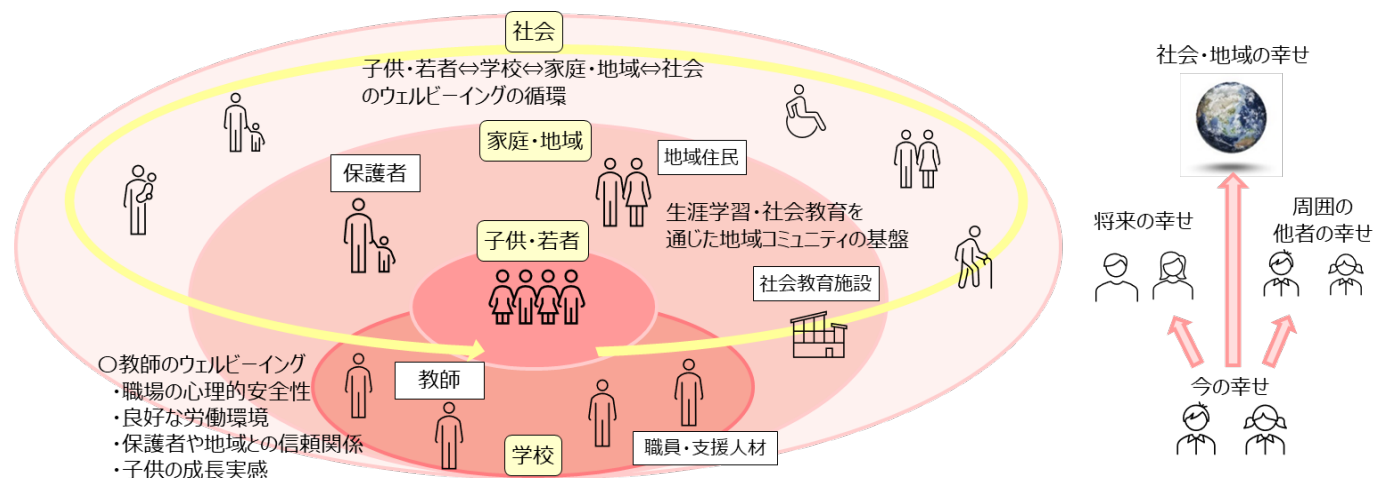


— 学校という「場」のウェルビーイングの醸成に向けて —



第4期教育振興基本計画における教師、学校、地域・社会の包括的ウェルビーイング

- 学校のある子供たちのウェルビーイングの状態を理解し、今後の教育政策を進めていくことが重要。
- 「全国学力・学習状況調査(以下「学力・学習状況調査」という。)」が毎年度実施されており、国語や算数等の教科に関する調査とともに、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査が行われている。令和5年度からは数項目のウェルビーイング関連項目が追加され、地域や社会に関わる活動の状況等、これまで別枠で扱われてきた質問項目についても、幸福感との関連を検討することで、包括的なウェルビーイングの指標としての活用が可能となった。
- 「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現(達成感、キャリア意識など)」、「心身の健康」に関連する項目について重点的に検討を行った。

令和5年度全国学力・学習状況調査 ウェルビーイングに関する分析報告書 【概要】

－ 学校という「場」のウェルビーイングの醸成に向けて －

【結果のポイント1】

●児童生徒の主観的幸福感は1～4点の中で、平均3点台半ばであった。

※ 数値が高いほど幸福感は高い。ただし、学力・学習状況調査は、悉皆調査だが全ての児童生徒が回答しているわけではないことには留意が必要である。

調査項目	小学生 (N=985,360)		中学生 (N=912,649)	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
学校に行くのは楽しいと思いますか	3.31	0.83	3.21	0.86
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	3.40	0.68	3.28	0.71
主観的幸福感得点(2項目の平均値)	3.35	0.63	3.24	0.66

* 範囲は1～4点で、数値が高いほど幸福感も高くなるように補正済

各調査項目の選択肢に応じて、たとえば「当てはまる」を4点、「どちらかといえば、当てはまる」を3点、「どちらかといえば、当てはまらない」を2点、「当てはまらない」を1点とする処理を行ってから分析を実施した。

令和5年度全国学力・学習状況調査 ウェルビーイングに関する分析報告書【概要】

— 学校という「場」のウェルビーイングの醸成に向けて —

【結果のポイント2】

●学校という場所においては、友達との関係、教師との関係など、他者とのつながりが児童生徒の主観的幸福感にとって重要。

共分散構造分析(※1)の結果

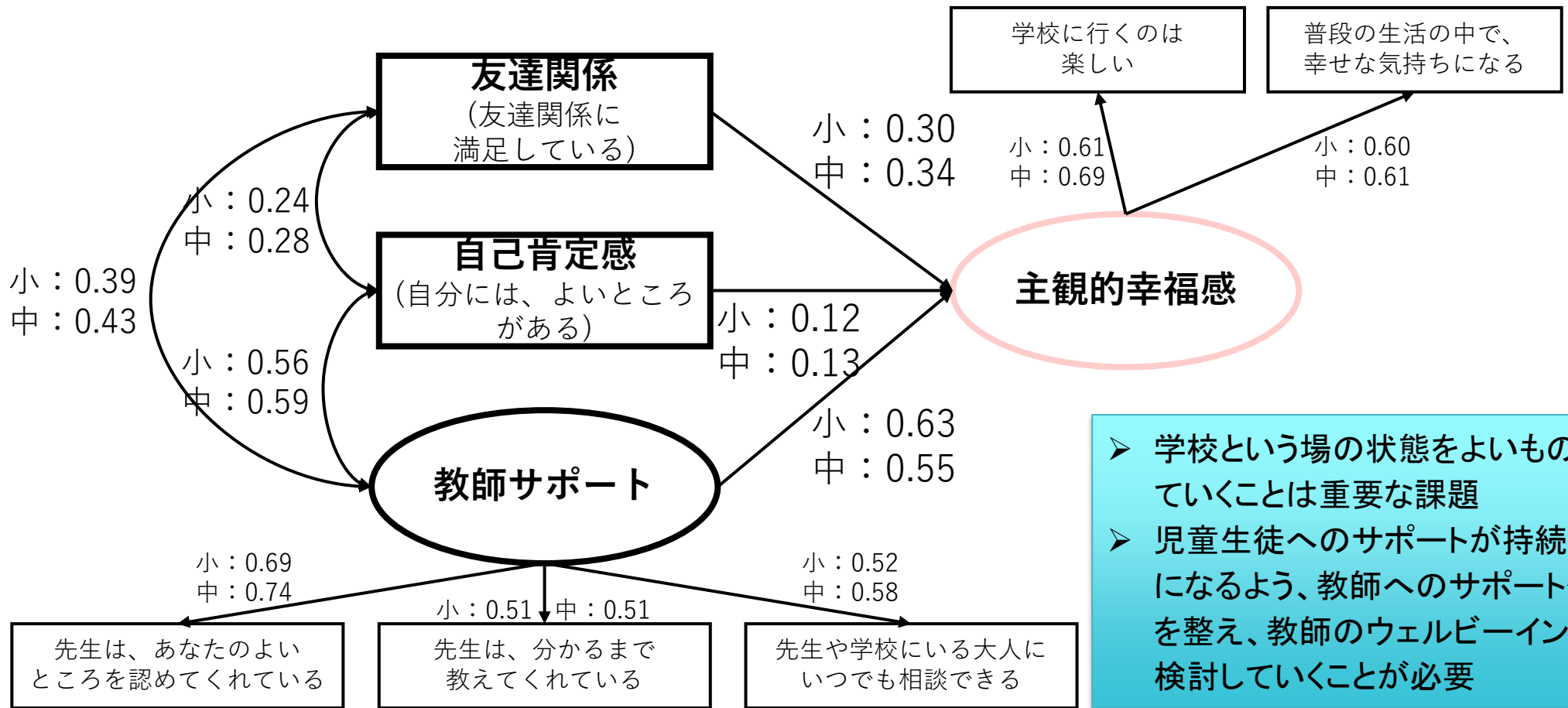
(※1) 共分散構造分析とは、互いに関連を持つ複数の要素間の関係性やその程度をモデル化する分析のこと。

小は小学生、中は中学生を表す。

片方矢印は標準化係数であり、絶対値が大きいほど被説明変数(矢印の先の項目)への影響力の大きさを示す。

両矢印は相関係数であり、二つの変数の関係を表す係数。

値が1に近いほど、強い相関関係を表す。すべて0.1%水準で有意。



- 学校という場の状態をよいものにしていくことは重要な課題
- 児童生徒へのサポートが持続可能になるよう、教師へのサポート体制を整え、教師のウェルビーイングを検討していくことが必要

参考: 主観的幸福感を従属変数とした重回帰分析の結果

	小学生	中学生
	β	β
切片	-0.098	-0.041
友達関係	0.247	0.284
地域のつながり	0.020	0.022
協働性	0.050	0.082
利他性	0.049	0.074
多様性	0.092	0.083
外国への関心	0.020	0.020
教師サポート	0.183	0.173
社会貢献意識	0.005	0.010
自己肯定感	0.136	0.170
自己実現	0.025	0.019
健康	0.043	0.041
教科への態度	0.159	0.078
成績	-0.021	-0.003
社会経済的背景	-0.029	-0.029
地域規模	0.014	0.011
学校規模	0.004	0.012
性別(女性ダミー)	0.196	0.082
調整済みR ²	0.411	0.434